

自転車への交通反則通告制度(青切符)の導入

- ・令和8年4月から、自転車の一定の交通違反に、交通反則通告制度が導入されます。
- ・本資料は、その制度の概要をまとめたものであり、詳細は、警察庁HPに掲載されている「自転車ルールブック」をお読みください。

令和8年4月1日から

- 自転車に対する交通反則通告制度（いわゆる「青切符」）の適用
- 16歳以上**の自転車運転者が交通反則通告制度の対象となります。

自転車の指導取締りの基本的な考え方

警察官が
交通違反を認知

悪質・危険な違反

指導警告

(例)・スピードを出して歩道を通行
・16歳未満の者による違反

検 挙

- 検挙後の手順が変わります(青切符による手続きが導入されます。)

検 挙

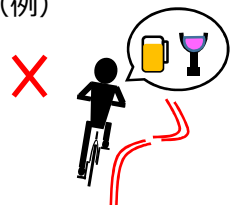
重大な違反や事故を起こしたとき
→ 刑事手続

- ・逮捕される場合もあります。

○違反自体が悪質・危険である重大な違反

〔検挙(刑事手続により処理)〕

(例)



飲酒運転



あおり運転



ながらスマホで道
路における危険を
生じさせた場合

○違反により実際に交通事故を発生させたとき

〔検挙(刑事手続により処理)〕

(例)



ハンドルから手を
離して自転車を運
転した結果、歩行
者と衝突したとき

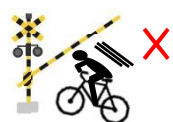
*記載している交通違反は例であり、これら以外の違反でも検挙の対象となります。

16歳以上の者による反則行為 → 青切符

指導・警告を経ず検挙の対象となる違反【例】

○反則行為の中でも、重大な事故につながるおそれが高い違反
〔検挙(青切符～反則金を納付すれば手続終了)〕

(例)



遮断踏切立入り



自転車制動装置不良

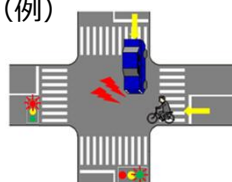


ながらスマホ

○違反の結果、実際に交通への危険を生じさせたり、事故の危険が高まっているとき

〔検挙(青切符～反則金を納付すれば手続終了)〕

(例)



信号無視で交差点に進
入し、青信号で進行し
ている車両に急ブレー
キをかけさせたとき



傘を差しながら一
時不停止をしたとき

○そのほか、違反について指導・警告されているにもかかわらず、または、あえて違反を行ったときは、検挙される場合があります。

〔検挙(青切符～反則金を納付すれば手続終了)〕

(例)



警察官による指導
警告に従わず、右
側通行を継続した
とき



前方に指導取締りを行っ
ている警察官の姿を認め
ながら、それを気にする
ことなく、指導警告のい
とまもなく信号無視をし
たとき